



# 太古の豊かな暮らしを 今に伝える井の頭池遺跡群

昭和37(1962)年 大場磐雄教授による御殿山遺跡第1次調査  
第1号住居跡の調査の様子

井の頭池遺跡群が発見されたのはいつですか？

最も古い記録は、明治20(1887)年6月に和田万吉氏が『東京人類学会報告』に書いた「久ヶ山村併に井の頭の土器」という記事です。井の頭弁天の祠の近くで、土器や石斧などを発見した記述が残っています。

本格的な発掘調査は、昭和37年に始まります。武蔵野市では、市史の編さんにあたり、以前から伝わる遺跡の存在を地域の中で明確に位置づけるために、國學院大學の大場磐雄教授に依頼し、御殿山で発掘調査を実施し、学術的な情報を市史に盛り込むことになりました。

発掘では何が  
発見されたのでしょうか？

1週間の調査期間中に、竪穴住居

## 武蔵野 History

武蔵野にまつわる歴史を  
楽しみながら学ぶ

昭和37(1962)年、武蔵野市は市史編さんにあたり井の頭池のほとりで遺跡の発掘調査を行いました。その後も発掘は続けられ、多くの住居跡、土器、石器が発見されてきました。國學院大學で考古学を研究する内川隆志さんに、遺物から見えてくる太古の人々の暮らしと発掘50年を迎える井の頭池遺跡群の意義について伺いました。

跡が二つ発見されました。時代は縄文中期の後半から後期の初頭(約4千年前)です。また、かなりの量の土器や石器も発掘されました。この調査をきっかけに、翌年には、当時井の頭公園内にあった都の武蔵野郷土館の事業として、同じ御殿山エリアで発掘調査が行われ、敷石住居跡も発掘されました。

以来、井の頭池周辺は、「御殿山遺跡」「吉祥寺南町二丁目遺跡」「吉祥寺南町三丁目遺跡」の3エリアに分けられ、これまでに合計で270回以上の調査が行われています。これらの井の頭池遺跡群は、東京都の指定史跡にもなりました。

発掘されたものから、  
どんなことが分かるのでしょうか？

武蔵野市は、武蔵野台地のほぼ中央に位置しています。東西50キロ、南北20キロに及ぶ日本最大の洪積台地です。

## むさしの今昔物語 ～御殿山遺跡の巻～

市史を編さんするために発掘された御殿山遺跡。わずか1週間の調査期間に二つの堅穴住居と大量の土器や石器が発掘されました。井の頭公園内にあるので、大規模な開発もなく、約50年前の発掘の地は、静かにたたずんでいます。

昔



昭和37年9月に行われた発掘調査で見つかった堅穴住居跡。実際の発掘に当たったのは、國學院大学の考古学の権威、大場磐雄教授と考古学専攻の学生たちでした。

今



草が生い茂った御殿山遺跡。市が昭和39年に建立した石碑があります。(御殿山1-18/井の頭公園内)

最も出土が多いのは、縄文時代のものです。住居跡が発掘されたことから、多くの人々がこの地に定住し、村を形成して

います。営みがあったことが分かっています。

井の頭池の周辺は、自然の恵みが豊富なエリアだったのでしよう。発掘調査では3万5千年前の旧石器時代に人が持ち込んだ礫(石)が確認されてお

り、人々のオアシスである湧き水が点在しています。井の頭池はその中でも大きな湧き水で、豊穡な土地であったことは間違いありません。武蔵野台地における遺跡は、すべてこういった池やそこから流れる川の流域に広がっているのです。



発掘当時の資料。発掘された石器などが記されている。



内川隆志さん  
國學院大学准教授。専門は、考古学と博物館学。平成10年から武蔵野市文化財保護委員を務める。

るための細石刃などに使われました。黒曜石は、信州地方のものも含まれています。つまり、黒曜石がはるか遠く信州から流通していたこととなります。縄文人は、流通のシステムを持ち、物を交換する共通の価値観を共有する、高い

文化を持つ人々だったといえるのです。縄文時代が終り、弥生時代になると農耕が始まり、人類は低地へと移動します。井の頭池周辺で人々が暮らしていた痕跡は、その後、江戸時代まで途絶えます。

また、石器の中には、黒曜石でできたものも含まれています。黒曜石は、破片が鋭く切れ味がよく、動物を射るための細石刃などに使われました。

美しい土器も出土しています。縄文時代の土器は、非常に芸術性が高く、その美意識の高さからも平和な暮らしを営んでいたことが推測できます。

いたことが分かります。井の頭池の周辺は縄文人にとっても「住みたい場所」だったのでしよう。

井の頭池の周辺を訪れたときには、その足下に古代の人々の暮らしの痕跡が眠っていることをぜひ思い出してください。

また、270回以上もの発掘調査は、そのほとんどが住宅やマンションなどの建て替えなどに伴って行われました。遺跡群のエリアでは、文化財保護法に基づく調査が義務付けられています。武蔵野市民の高い文化意識と協力的な姿勢がなくては、これまで多くの調査は実現しなかつたでしょう。素晴らしいことだと思います。

武蔵野市のエリアは、太古からとても豊かな場所であったということ。縄文人たちは争いをせずに、共生しながら、平和な暮らしをしていました。争いの痕跡は出土していません。現代を生きる私たちは、平和な暮らしを営んでいた縄文人たちを見習わなければなりません。

井の頭池遺跡の50年間の発掘はどんな意味を持つのでしょうか？

武蔵野市のエリアは、太古からとても豊かな場所であったということ。縄文人たちは争いをせずに、共生しながら、平和な暮らしをしていました。争いの痕跡は出土していません。現代を生きる私たちは、平和な暮らしを営んでいた縄文人たちを見習わなければなりません。

井の頭池遺跡の50年間の発掘はどんな意味を持つのでしょうか？

文化を持つ人々だったといえるのです。縄文時代が終り、弥生時代になると農耕が始まり、人類は低地へと移動します。井の頭池周辺で人々が暮らしていた痕跡は、その後、江戸時代まで途絶えます。